巻頭言

信州大学環境科学研究会の発展を期して

信州大学長　森 本 尚 武

本研究会の前身は 1978 年に各学部の教官が集まって作った「信州大学環境問題研究教育懇談会」である。当時我国ではちょうど科学技術の進歩に伴って環境汚染が進行し、人間を取り巻く環境にさまざまな形で負の影響が現れてきた時期であった。これらの環境に関する課題を解決するために、研究費「特定研究」による補助を受けながら、各学部の教官達が集まり、情報交換、研究会及びシンポジウムを持つことになったのである。環境問題は極めて幅広い分野を包括していることから、まずは参加した教官の専門分野の研究を通して、環境問題をどうとらえるかについての基礎的な研究から始め、それらの研究成果を「信州大学環境科学論集」としてまとめて、毎年出版することにした。爾来 22 年間この論文集は「信州大学環境科学年報」と名称を変えて、現在も継続して出版されている。今までに掲載された合計論文数は約４00 篇にのぼっている。論文の中には、その成果が直ちに社会の要請に応え得るものだけでなく、さまざまな環境問題の解決のための基礎的な研究成果も多く含まれおり、これらの論文は大学の内外を問わず、極めて高い評価を受け、現在も環境問題に真剣に取り組んでいる信州大学の名を全国に知らしめる結果になっている。

ところがいくらすぐれた研究成果が発表されたとしても、環境問題の解決には直結せず、教官はしばしばジレンマに陥ったものである。複雑な現代社会との結びつきが強い環境問題は、単一の分野からだけのアプローチでは解決の糸口はみつからないとして、既存の学問分野を越えて、人文、社会、自然科学の連携による総合的な研究が不可欠であることを身をもって感ずるようになった。その結果、主要な環境に関する課題の解決のために、基礎的および応用的研究を含有した共同研究グループが発足した。現在も各学部の 100 名以上の教官がいくつかのグループに分かれて共同研究を実施しており、その成果が大いに期待されていると

ころである。

信州という恵まれた自然環境の中で、教育・研究を展開している本学の教官こそ、地球環境と人類の豊かな生活を確保し、それを持続可能な状態に修復に向って貢献する使命がある。異なった学問分野の連携のもとに「環境科学」という新しい学問領域を創生し、世界各国の研究者との情報交換と共同研究を推進して、本研究会の組織的な研究が地球環境問題の修復にかかわる国際的な拠点となることを願ってやまない。

平成13年3月